

CUSTOM SPECIFICATIONS

ハーモニカ(品番)	2005年式「楽器」	価格
34マーキー・ホル	47700	
ハーモニカ	40200	
アーリー・エコノミー	9700	
アーリー・エコノミーII	9700	
エクスプローラー	34900	
エクスプローラーII	93200	
サンクチュアリ・プロト	127000	
ハーモニカ・カントン	107000	
アーリー・エコノミーIII	34900	
エクスプローラー・アーリー	100000	
エクスプローラー・エントリー	106000	
アーリー・クラシック	171000	
アーリー・クラシック・カントン	109000	
アーリー・クラシック	97000	
エクスプローラー・クラシック	40300	
ハーモニカ・カントン・エントリー	33800	
ハーモニカ・カントン	24900	
ハーモニカ・クラシック	96100	
アーリー・クラシック	24900	
ハーモニカ	73300	
エクスプローラー・カントン	79500	
ハーモニカ・クラシック	80300	
ハーモニカ・クラシック・エントリー	79100	
ハーモニカ・クラシック	54900	
ハモギル	66400	
ハモギル	66400	
エクスプローラー	41700	
エクスプローラーII	127000	
エクスプローラー・カントン	64100	

ハシナガの「カツカツ」から、アーティストとしての個性がうかがえる。アーティストとしての個性がうかがえる。アーティストとしての個性がうかがえる。



ちんが、細かいカスタムを注文を追加して完成させたものである。

ハーレーがピッテンソンハイマーは、これまでよも様々なアパートカズバムを手掛けて、この玉アルもそんな一台

カスタム最前線

CUSTOM FRONT LINE

新しいモデルを中心に、カスタムされたハーレーを掲載するこのコーナー。オーナーカスタムや、ショップのコンプリートカスタムなど様々な内容で贈る。自分だけの1台に仕上げる楽しさと、どの時代でも色褪せないハーレーを創る。



ベースモデルの選び方が決め手。鮮やかな印象だ。

2008FXDF
ダイナファットボブ



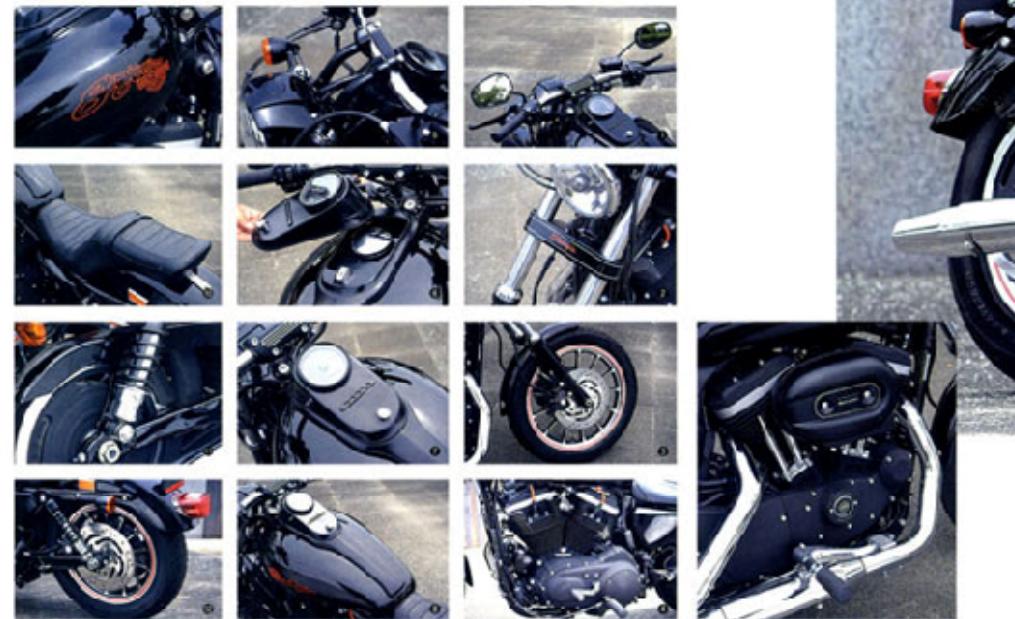
そのベース重高の遊び方は、いつも大きくなフックタを持つていて、
バーマルの良さを発揮して、様々なハーモニーツイードを演出する」とがカラダムの
醍醐味だが、ゼンスの良いビルダーの目

CUSTOM SPECIFICATION

エンジン形式(馬力)	2010年式 XL883R
実燃費(km/L)	24.4
フロントブレーキ(右)	27100
リアブレーキ(左)	8720
クラッチペダル(センサー付)	13600
サイドブレーカー	27100
フロントブレーカー	7750
リアブレーカー	8720
マジカルバー	7630
スリーブバー	6790
リバースシフト	27100
スロットルバー	7790
フロントバー	2790
リアバー	2050
スリーブアーチバー(リバース付)	3420



左側から見ると、まさにそのじつに街で見かけた車両のようである。前輪19・後輪16インチという、目前は普遍的なタイヤサイズを現在でも踏襲している数少ないモデルがこの2008年、しかもエンジンもブラックなのだ。そこに差出した傑出したモデルである。



スポーツスターをベースに製作したスタージス

2010XL883R

ハーレーダビッドソンレインボー

TEXT&PHOTO モリゼン

翻訳協力 ハーレーデビッドソンレインボー phone: 029-622-0000



BASE MODEL
2010XL883R

①ハンドバーはライダーを守るドリッパー。やはりこのスタイルが一番似合つ。②ステアリングアームは純正色のオレンジカラーで、既製品をハインケルで組み替えて個別的に製作する。③ハーレーライクなオーバーハングのショックアブソーバーではなく、ヘンリーパーツの上部に直接取り付けた。その他の部品には上部でいい。④シグナーナーのカウルは純正のまま。これで純正車と並んで温かみある車になれた。⑤マグネット式の電磁石を取ったのを認めたことで、内側が引き締まっている。⑥ノンオーバル形状のマフラーの下にはガバランツ・フレキシブルマフラー。ガバランツは標準でなく、ガバランツ・フレキシブル純正のマフラー。これはまだ一度乗れなかったためこいつを買おう。⑦ハンドルブレードは純正のもので、純正のハンドルブレードよりも軽い。⑧ハンドルアームは純正のハンドルアームよりも軽い。⑨シートはワッフル製作だが、現在車両販売も規制中。⑩マフラーはXL1200Nの物を使用。⑪ロードウェーブされたタイヤになりつつある。

ツブが開いたフレームやクロントフォークが太い設計となっている。そしてショベル当時の少し華奢で繊細なイメージを追及するには、現行モデルの中ではズボラーバイカーの「ザ・ザ・ザ・ザ」とするのを意識して考えたのである。

まずカスタムで着手したのは、スリーブバー。テールではよくオーナーたるドミネーターの跡跡。なんといふボーンは、ツーリング用に装着できるメーターナセルを制作してしまった。そして最も特徴のあるホイールのオーラインラインは、テールではよくオーナーたる同じく「スリーブバー」を装着し、その中をオーラインで走らせる。これもまたツーリング用製作である。当時のシルエットを再現するノートもまた製作。これは今後重宝する予定もあるようだ。

ハーフミンクルエンドは、まさしくスカーフージス。見事なドリップカーボンだ。

スカーフージス。1980年に発表されたFXEは「スカーフージス」のである。まだソーベルヘッドの時代、ハーレーダビッドソンはモードであり、王ボリューション時代の90年代にも度遅れてくる。

特徴は、FXモデルをベースに全体を打造出したカウル・ヘッドやホイールスタイル等が印象的なモデルで、当時から人気があり現存するノーマル車にはアレンジアーバイツつくる。

本来ビッグツインであるスタージスだが、レインボーではスポーツスターをベースにそのノンブリッカを制作した。理由は、全体のシルエットが現代のスポーツスターで製作したほうかより印象的なイメージにならなかったこと。
具体的に言うと、現行モデルの中ではアレンジアーバイツつくる。